

普及指導員調査研究報告書

課題名：病害虫・生育障害診断事例の情報共有化と普及への活用

農林総合技術センター技術指導室 担当者氏名：畑中 猛

<活動事例の要旨>

病害虫・生育障害について、農林総合技術センターにおいて診断を行っており、診断結果の共有化を図るため取りまとめを行った。

1 普及活動の課題・目標

農林事務所等から持ち込まれる農作物の病害虫・生育障害は、農林総合技術センターの技術指導室、資源循環研究室、土地利用作物研究室、園芸作物研究室等が連携して診断を実施し、診断結果が現場の課題解決に活用されている。

については、診断情報を関係機関で共有することで現場での病害虫・生育障害状況の判断と普及指導員の診断技術の向上を図る。

2 普及活動の内容

現場で問題となり、原因が不明な病害虫・生育障害について、別添診断依頼書及びサンプルにより診断を実施した。また、現場に赴き、現地での発生状況の確認とサンプルを採取し診断した。

3 普及活動の成果

今回、平成26年4月から平成27年2月までの病害虫・生育診断依頼のあったもののうち、44事例の診断回答及び43事例の診断事例を選定した（病害虫診断事例データベース一覧）。なお、農家名、連絡先等については、削除した。

事例が多いため、紙ベースではなく、CD-ROMにより農林事務所等へは配布する予定である。病害虫診断事例データベース一覧の診断回答及び診断事例について、PDFをクリックすると表示できる。

4 今後の普及活動に向けて

(1) 病害虫・生育診断依頼するにあたっての注意事項

ア 診断のために持ち込む検体は、3検体以上とする。

イ 検体は鉢・株ごとに持ち込むか、健全部を含んだ異常部位を新しいナイロン袋に密閉して持ち込む。

ウ 乾燥した検体、腐敗が進んだ検体は診断できないため、なるべく新鮮な検体を持ち込む。

エ 診断のための検体のほか、比較のために健全な検体を持ち込む。

オ 診断依頼書に詳しく記入する（pH、ECの分析値、薬剤の散布履歴）。

(2) 診断回答後の普及指導員の対応

ア 現場にわかりやすく説明し、対策について指導する。

イ 実際の対策を確認し、効果について検討する。

ウ 診断結果に基づく現場対応と効果について診断依頼書回答に記入のうえ、技術指導室へ返送する。

(3) 現場情報受領後の農林総合技術センター対応

ア 被害が増加する場合、現場からサンプル提供による診断や対策の再検討を実施する。

イ 場合により、現場に赴き、現地での発生状況の確認とサンプル採取を実施する。

5 その他

病害虫・生育診断について、迅速な診断を心がけているため、必ずしも「コッホの三原則」により確認している訳ではない。については、対応後の現場発生状況の確認が重要であり、農林事務所等からの情報提供を要請する。

診断依頼先	診断依頼者
栽培・土壌・病害虫 ※ 依頼希望先に○をつける	所属 氏名 連絡先
依頼年月日	年 月 日
表題(症状がわかるように)	
1 作物・品種名・種苗入手先	(露地・施設) . . .
2 発生場所(農家名)	()
3 発生時期(気づいた時期)	月 日
4 発生状況 ※ほ場内での発生分布を記載のこと	株の発生部位 () ほ場の全面積 (約 a) 発生面積割合 (約 %) 発生株率 (約 %) ほ場内の発生部位[全体に均一・全体に坪状・一部に坪状・一部に筋状・その他()]
5 ほ場の状況	pH(野菜・花き・畑作物の病害・生育障害は必須) EC 薬剤散布(散布日・薬剤名) 栽培上の特記事項
6 播種時期(定植時期)	
7 普及指導員、営農指導員、農家等の判断、意見	
8 写真貼付(近景・中景・遠景)	別シートに貼付してください。 ※ほ場における発生状況を撮影のこと
9 診断を依頼する理由	
診断結果	診断結果: 対策: 耕種的防除 化学的防除 ・有効な農薬() その他(留意事項等) (所属 氏名)
診断結果伝達後の現場の状況(必ず報告してください)	

注1) 診断のために持ち込む検体は、3検体以上としてください

注2) 検体は鉢・株ごと持ち込むか、健全部を含んだ異常部位を新しいナイロン袋に密封して持ち込んでください

注3) 乾燥した検体、腐敗が進んだ検体は診断できないため、なるべく新鮮な検体を持ち込んでください

注4) 診断のための検体のほか、比較のために健全な検体を持ち込んでください

写真の貼付

ほ場全体画像、発生株全体画像、障害の近接画像

